

# 評価結果報告書

## 地域密着型サービスの外部評価項目構成

	項目数
I. 理念に基づく運営	11
1. 理念の共有	2
2. 地域との支えあい	1
3. 理念を実践するための制度の理解と活用	3
4. 理念を実践するための体制	3
5. 人材の育成と支援	2
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	2
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応	1
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援	1
III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	6
1. 一人ひとりの把握	1
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し	2
3. 多機能性を活かした柔軟な支援	1
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働	2
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	11
1. その人らしい暮らしの支援	9
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり	2
<b>合計</b>	<b>30</b>

事業所番号	2374900260
法人名	有限会社 雄生
事業所名	グループホーム のどか
訪問調査日	平成 19年 8月 30日
評価確定日	平成 19年 9月 10日
評価機関名	特定非営利活動法人『サークル・福寿草』

**○項目番号について**  
 外部評価は30項目です。  
 「外部」の列にある項目番号は、外部評価の通し番号です。  
 「自己」の列にある項目番号は、自己評価に該当する番号です。参考にしてください。  
 番号に網掛けのある項目は、地域密着型サービスを実施する上で重要と思われる重点項目です。この項目は、概要表の「重点項目の取り組み状況」欄に実施状況を集約して記載しています。

**○記入方法**  
 [取り組みの事実]  
 ヒアリングや観察などを通して確認できた事実を客観的に記入しています。  
 [取り組みを期待したい項目]  
 確認された事実から、今後、さらに工夫や改善に向けた取り組みを期待したい項目に○をつけています。  
 [取り組みを期待したい内容]  
 「取り組みを期待したい項目」で○をつけた項目について、具体的な改善課題や取り組みが期待される内容を記入しています。

**○用語の説明**  
 家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。  
 家族 = 家族に限定しています。  
 運営者 = 事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)を指します。経営者が管理者をかねる場合は、その人を指します。  
 職員 = 管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすべての人を含みます。  
 チーム = 管理者・職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

# 1. 評価結果概要表

## 【評価実施概要】

事業所番号	2374900260
法人名	有限会社 雄生
事業所名	グループホーム のどか
所在地	〒470-0126 日進市赤池町モチ口61-158 (電話) 052-804-9550

評価機関名	特定非営利活動法人『サークル・福寿草』		
所在地	名古屋市中村区松原町1丁目24番地 COMBi本陣 N203号室		
訪問調査日	平成19年8月30日	評価確定日	平成19年9月10日

## 【情報提供票より】( 年 月 日事業所記入)

### (1)組織概要

開設年月日	平成 15 年 3 月 1 日		
ユニット数	1 ユニット	利用定員数計	9 人
職員数	10 人	常勤	5 人, 非常勤 5 人, 常勤換算 6.6 人

### (2)建物概要

建物構造	木造 造り
	2 階建ての 1 階部分

### (3)利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	45,000 円	その他の経費(月額)	27,000 円	
敷 金	無			
保証金の有無 (入居一時金含む)	有( 50,000 円)	有りの場合 償却の有無	無	
食材料費	朝食	250 円	昼食	400 円
	夕食	450 円	おやつ	0 円
	または1日当たり 1,100 円			

### (4)利用者の概要( 月 日現在)

利用者人数	7 名	男性	1 名	女性	6 名
要介護1	2 名	要介護2	0 名		
要介護3	3 名	要介護4	2 名		
要介護5	0 名	要支援2	0 名		
年齢	平均 86 歳	最低	75 歳	最高	100 歳

### (5)協力医療機関

協力医療機関名	城田内科クリニック , 相生山病院
---------	-------------------

## 【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

清閑な住宅地の一角にあり、一見グループホームとは気づきにくく、周辺の民家に溶け込んでいるホームである。しかし、建物の中はバリアフリーとなっており、木造建ての木のぬくもりが感じられ、利用者にとってもおだやかに過ごせる造りとなっている。代表者は地元の人であり、地域に根ざしたホームでありたいという思いから、認知症対応型のデイサービスやショートステイを提供している。さらに、空きの敷地に別の地域密着型サービスを展開しようと考えている。先日では100歳になられた利用者さんの誕生日会を祝うなど、職員一同、利用者が最後までその人らしく暮らしていけるように、常に寄り添う姿勢で接している。管理者とも気兼ねなく話せる関係にあり、管理者の健康を気遣うなど、互いに支えあいながら、人間関係の良好なホームである。

## 【重点項目への取り組み状況】

重点項目 ①	<p>前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)</p> <p>前回の評価では、ホームの理念や役割について地域に理解されるよう期待されていたが、4回にわたる運営推進会議の場で、理念や活動内容について説明されている。 地域との交流として、子ども110番の受け入れを検討していたが、実現には至らなかったが積極的に働きかけている。</p>
	<p>今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)</p> <p>管理者・職員ともに評価の意義とねらいについて話し合いの場を設け、意見を出し合いまとめて、全員で取り組んでいる。前回の評価の献立の記録についても改善が見られた。</p>
重点項目 ②	<p>運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)</p> <p>活動内容と活動予定の報告、前回出された議案の取組状況(評価)、参加メンバー等からの要望や助言について話し合われている。 会議を活かした取り組みについては、看板設置の提案や利用者の安全についての報告などの要望には取り組まれている。</p>
重点項目 ③	<p>家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)</p> <p>家族が来訪しやすくなるようにと、行事案内を出すなどして、来訪時に意見や苦情等について聞く機会を設けている。出された意見、要望等は会議で話し合い、運営に反映させている。また、来訪時に健康状態や暮らしぶりを報告し、状態の変化のときは電話で対応している。</p>
重点項目 ④	<p>日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)</p> <p>町内会に加入しており、納涼祭などの地域行事に利用者と一緒に参加している。また、ゴミ出しや散歩、買い物などに出た時に、地域住民と顔を合わせれば、挨拶をしている。 老人会には加入していないが、老人会との交流はある。近々、地区に小学校が開校されるが、この機会に小学生との交流も考えている。</p>

## 2. 評価結果(詳細)

(  部分は重点項目です )

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
<b>1. 理念と共有</b>					
	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	代表者は地域で生まれ育ち、地域との関係性を重視することを当たり前のように思っているため、あえて住み慣れた地域での暮らしを支えることを理念として掲げてはいないが、事業所独自の「のんびりと のどかに」過ごせることを理念としている。	○	地域密着型サービスとして何が大切かを全職員で話し合い、住み慣れた地域で安心した暮らし、地域生活の継続などの支援を目指した内容の理念を求めたい。
	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	職員の採用時にホームの理念を伝え、毎月行われているケア会議の場においても、理念について触れ、確認し合っている。また、常に目に触れるように、玄関口や職員の通用口等に掲げている。		
<b>2. 地域との支えあい</b>					
	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	町内会に加入しており、納涼祭、盆踊りなど地域の行事に利用者と一緒に参加している。 老人会には加入していないが老人会との交流はある。近々、地区に小学校が開校されるが、この機会に小学生との交流も考えている。	○	地域との交流をさらに深めていくためには、地域活動の情報を集め、それらに参加するなど接点を持つ努力をするとともに、ホームから地域住民に向けて情報を発信するなど、地域で必要とされる活動や役割を担っていく努力についても期待したい。
<b>3. 理念を実践するための制度の理解と活用</b>					
	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	過去2回評価を実施しており、管理者、職員ともに評価の意義を充分理解している。自己評価を実施したことのない職員には、話し合いの場において意義とねらいについて、話し合い全員で自己評価に取り組んでいる。前回の評価において、献立の記録をとるなど、一部評価が活かされている。		
	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	19年6月現在で、4回の運営推進会議が行われている。メンバーは固定せず、利用者及び家族代表、区長、民生委員、市職員、市議会議員、近隣の施設長、NPO活動員など多様な人材が参加されている。 会議での意見が直接サービス向上に活かされたと思われる例はないが、出された要望には応えている。	○	会議は単に活動報告や情報交換で終わらずに、地域の理解と支援を得るための重要な機会である。話し合いを通じ、意見を頂き、サービスの向上に活かしていくことが重要である。議事録は会議での様子が分かるような工夫が望まれる。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	代表者は市の高齢者虐待ネットワークの委員として市担当者と協働している。また、長寿支援課の担当者と連絡を取り合い、今後の事業計画について相談している。他に、介護相談員の受け入れにおいて、関係者と連携している。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々に合わせた報告をしている	利用者の暮らしぶりや健康状態については、家族が来訪されたときに、その都度報告し、状態の変化や病状の予後については、電話で報告している。また、金銭管理については、毎月の請求書送付時に領収証を添えて報告している。	○	家族の来訪時や利用者の健康状態を電話による報告だけでなく、家族の安心を確保し、事業所との信頼関係を築くためにも積極的な報告が大切である。定期的なホーム便りを発行されるなど、ホームでの暮らしぶりやエピソードなどを伝えていくことにも期待したい。
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議において、参加メンバーを固定していないため、希望すれば会議の席で意見を表す機会はある。 家族会はないが、ホームの行事案内を家族に送り、来られた時に意見を聞き、運営に反映させている。	○	家族は、管理者や職員に直接不満や苦情等を言い出し難いということもあり、意見箱を設置するなど、意見が出しやすくなる等の工夫が望まれる。
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	1事業所、1ユニットであるため、法人内やユニット間の異動はない。代表者は離職を抑えるために、職員とのコミュニケーションを大事にしている。 やむを得ず離職となった場合は、少なくとも1か月前には把握しているので、その期間に引き継ぎを行ない、スムーズに移行できるように配慮している。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	愛知県グループホーム連絡協議会の研修や名古屋市介護サービス事業者連絡研究会の定例会に、順番に参加している。それらの研修報告や法人内研修はケア会議で行われている。 働きながら技術や知識を身につけて、ヘルパー2級や介護福祉士の資格を取得した職員もいる。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	代表者は、加入しているグループホーム連絡協議会の研修会や意見交換会に職員を交代で参加させ、同業者との交流を図っている。また、運営推進会議の参加メンバーに他施設の施設長を加えるなど、同業者の意見や経験をサービスの質の向上に活かそうと取り組まれている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気などに徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	本人が納得した上でサービスが利用できるように、入居を希望される利用者のホーム見学、さらに体験入居も実施している。法人は共用型の通所介護事業も行っており、デイサービスを利用しながら職員と馴染みの関係を築き、入居に至ったケースもある。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	普段から職員は介護に追われる様子はなく、利用者寄り添い、のんびりとどかに過ぎ行く時間を共有している。また、日々の生活の場面で、朝の掃除、洗濯物たたみ、ゴミ出しなど一緒に行っている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	一人ひとりの思いや希望、意向を把握するために、本人の生活を支えるためのアセスメントとしてセンター方式を活用している。また、日々の関わりの中で把握に努め、ケア会議において確認し合っている。 家族との同居を希望された利用者に対して、ケアハウスへの住み替えの支援を行なったケースもある。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	本人や家族の気づきや意見が集約されたセンター方式のアセスメントと、職員のアイデアや願いがケア会議において話し合われ、それを基に計画作成担当者が個別の介護計画を作成している。 全体の介護計画とは別に、日常の主な行動・状態についての24時間介護計画も作成している。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	3か月ごとにサービス担当者会議を開催し、その場で評価をし、介護計画の見直しが行なわれている。現状に即した新たな計画が必要か否かは、月1回のケア会議の場において話し合われている。現状に即していない計画は見直し期間に関係なく、新たに作成し直している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援(事業所及び法人関連事業の多機能性の活用)					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	近隣の高齢者が事業所の利用をできるように、共用型認知症対応型通所介護(デイサービス)や短期利用共同生活介護(ショートステイ)を実施している。また、日常の健康管理や症状の急変、その他緊急時に対応できるように、職員として看護師を配置し、医療連携体制をとっている。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域支援との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人や家族から希望を聞き、協力医をかかりつけ医とすることに納得されている。在宅総合診療制度を採用しており、協力医の訪問診療が受けられるように支援している。協力医療機関以外の診療に対しては、家族と相談して臨機応変に対応している。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	現在、利用者が重度化した場合や終末期における対応について、職員間で話し合い確認している段階で、具体的にはまとまっていない。しかし、代表者及び職員は、終末期における対応の指針を定めることの必要性は感じている。	○	重度化や終末期に向けた支援は、今後の事業所の課題であり、また利用者や家族の関心事のひとつでもある。できるだけ早い段階で話し合いの機会をつくり、関係者全体の統一を図っていくことを望みたい。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	利用者には、はっきりと丁寧に穏やかな語調で話しかけている。利用者一人ひとりの尊厳を大切に、常に声をかけてから支援に移られている。記録等の個人情報、鍵のかかる場所に保管され、その使用に関しては、目的と期間を明記した文書で契約者から同意を得ており、取扱いには注意を払っている。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者が自宅に帰りたと思ったとき等、その時々希望に応えることは難しいが、計画を立てその思いに近いものが叶うように努力している。ホームでは基本的な一日の流れはあるが、職員の都合によるスケジュールはなく、食事に時間をかけられる人に対しても、その人に合わせた支援が行われている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援</b>					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者個々の力に合わせて、買い物、準備、盛り付け、食事、後片付けなどを一緒に行なっている。 献立は、家庭菜園の野菜や旬の食材が使われ、義歯を使用している人にも食べやすい工夫されている。 また、利用者の食の進み具合を気遣いながらも楽し		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入浴は週3回で、シャワー浴に関しては随時対応している。入浴時間は利用者の生活パターンに合わせて16～18時とし、その間ならば、本人の入りたいタイミングに合わせて支援している。 入浴を拒む人に対しては、言葉かけに工夫をしたり、時間をおいて声をかけるなど努力している。		
<b>(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援</b>					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	アセスメント記録や日々のかかわりの中で、その人に合った役割を見つけて、畑の収穫、ゴミ出し、洗濯物たたみ、食器拭き等を一緒に行なっている。 誕生日会、音楽会等を通じて、みんなで楽しめる場面を作っている。また、月に一回ほど訪問されるボランティアとの交流は、利用者にとって気晴らしとなっている		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	日常的にゴミ出しや週3回ほどの買い物には、一緒に出かけている。歩行に不安のある利用者には、車いすを使って戸外に散歩に出ている。 家族との外出を希望されるときは、連絡調整や支度等の支援をしている。ホーム敷地内の畑には、自由に出て作業ができるようになっている。		
<b>(4) 安心と安全を支える支援</b>					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	玄関にはセンサーによって人の出入りを知らせる設備はあるが、常に施錠している。代表者は、日中玄関に鍵をかけることの弊害よりも、治安面や利用者の安全面、一部の家族の声を重視して、現状のかたちをとっている。	○	職員で話し合いながら、日中鍵をかけないで支援していこうという意識の取り組みに期待したい。そして、利用者が外に出なくなる理由や傾向をつかみ、近所の人にも協力を求め、地域で支えていく関係を築いた上で、常に施錠ではなく、必要最低限の施錠へと、日中鍵をかけない時間をつくるなどの工夫に取り組まれることを期待した
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	災害時にはすばやく消火できるように、台所と事務所にそれぞれ消火器が置かれている。 非常災害時の対応マニュアルは作成されており、消防署の協力を得て年一回避難訓練を行なっている。避難場所は近くの公民館としているが、マニュアルとともに全職員に周知徹底されているか不安が残る。	○	避難訓練は、夜間に災害が発生したことを想定した場合も含めると、年に二回の実施が望まれる。また、非常用の飲食物や備品の準備もさることながら、事業所だけの避難の限界を認識し、地域住民との協力体制についても検討されることを期待したい。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食前に全員で嚥下体操を行ない、飲み込みやすい状態に整えたり、利用者によっては硬いものや大きいものを食べやすい状態に手を加えるなど工夫している。水分や食事、おやつ摂取状況を把握し、記録にも残している。食欲不振等で栄養不足にある人に対しては、医師の処方のもと、栄養剤の補給も行なっている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用空間は清潔に保たれ、天窓からは柔らかい光が射し込めるように工夫されている。 リビングの一角には畳の間があり、そこで洗濯物をたたんだり、横になったり、くつろげるようになっている。 中庭は畑とウッドデッキがあり、洗濯物を干したり、夕涼みができるように長椅子が置かれている。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもをを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室は新調された家具が目立つが部屋全体のバランスは損なわれておらず、落ち着いた空間となっている。 本人の使い慣れた品が少なく、家族の意向が強く感じられるが、それでも家族の写真が飾られていたり、神棚が祀られていたり、その人らしい居室作りとなっている。		